

大磯海水浴場 開場 130 周年

湘南も海水浴もすべては大磯から始まった！

# 大磯海水浴場の歴史

企画：2014 いそっこ海の教室実行委員会  
制作：NPO 法人 大磯だいすき倶楽部

今年、大磯町は日本で初めて海水浴場を開設して130年になりました。

これを記念して今回、「第10回いそっこ海の教室」の記念事業として、「大磯海水浴場の歴史」と日本で初のサーフィンの歴史をこの大磯で作った、故坂田道さんを偲んで「大磯波乗り物語」のパネル展示を行い、冊子にしました。

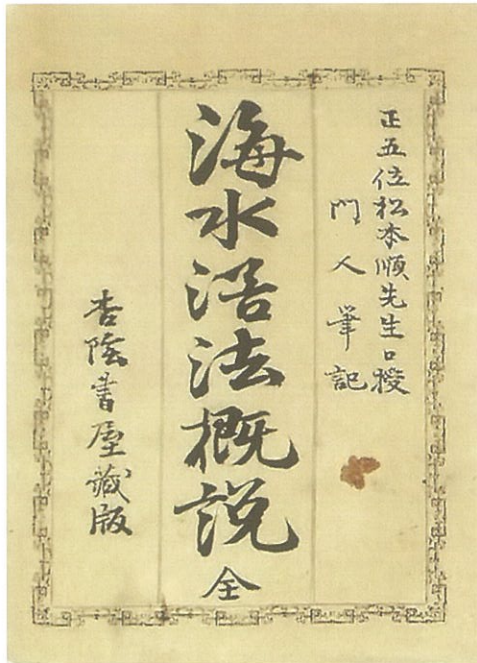
この二つの歴史をこれからの子供たちに、後世まで語り継いでいただきたいと願っています。

2014年

NPO法人大磯だいすき倶楽部

海水浴場を開設して130年

# 大磯海水浴場の歴史



大磯おおいそから始はじまった

海水浴かいすいよくの歴史れきし



医師いしにより治療ちりょうとして始はじまりレジャーへと発展はってんした海水浴かいすいよく

近代きんだいの海水浴かいすいよくは英国えいこくで医師いしのリチャード・ラッセルが  
医療技術いりょうぎじゆつとして確立かくりつし、ロンドン郊外こうがいのブライトンに  
海水浴場かいすいよくじょうと医療施設いりょうしせつを開設かいせつしたことに始はじまります。

日本にほんでも明治18年めいじ ねん、医師いしの松本順まつもと じゆんの働きかけにより  
大磯海水浴場おおいそ かいすいよく じょうは開設かいせつされました。早くから海水浴かいすいよくの効用こうように  
注目ちゆうもくをしていた松本順まつもと じゆんは、大磯おおいそに長期滞在ちようきたいざいし、海水浴かいすいよくを  
しながら病氣びょうきを治す転地療養てんちりょうようを広めました。

当時とうじの海水浴かいすいよくは、潮流ちやうりゅうで身体しんたいに刺激しげきを与え海辺あたの清涼うみべ せいりょうな  
空気くうきを吸すううことでした。

海水かいすいにつかっているだけで、いわば潮湯治しおとうじのようでした。

# 海水浴場から始まり、避暑地 別荘地へと変化を遂げた大磯

明治から昭和にかけて、要人の避暑・避寒地として知られており、特に伊藤博文、吉田茂のそれは特に有名である。

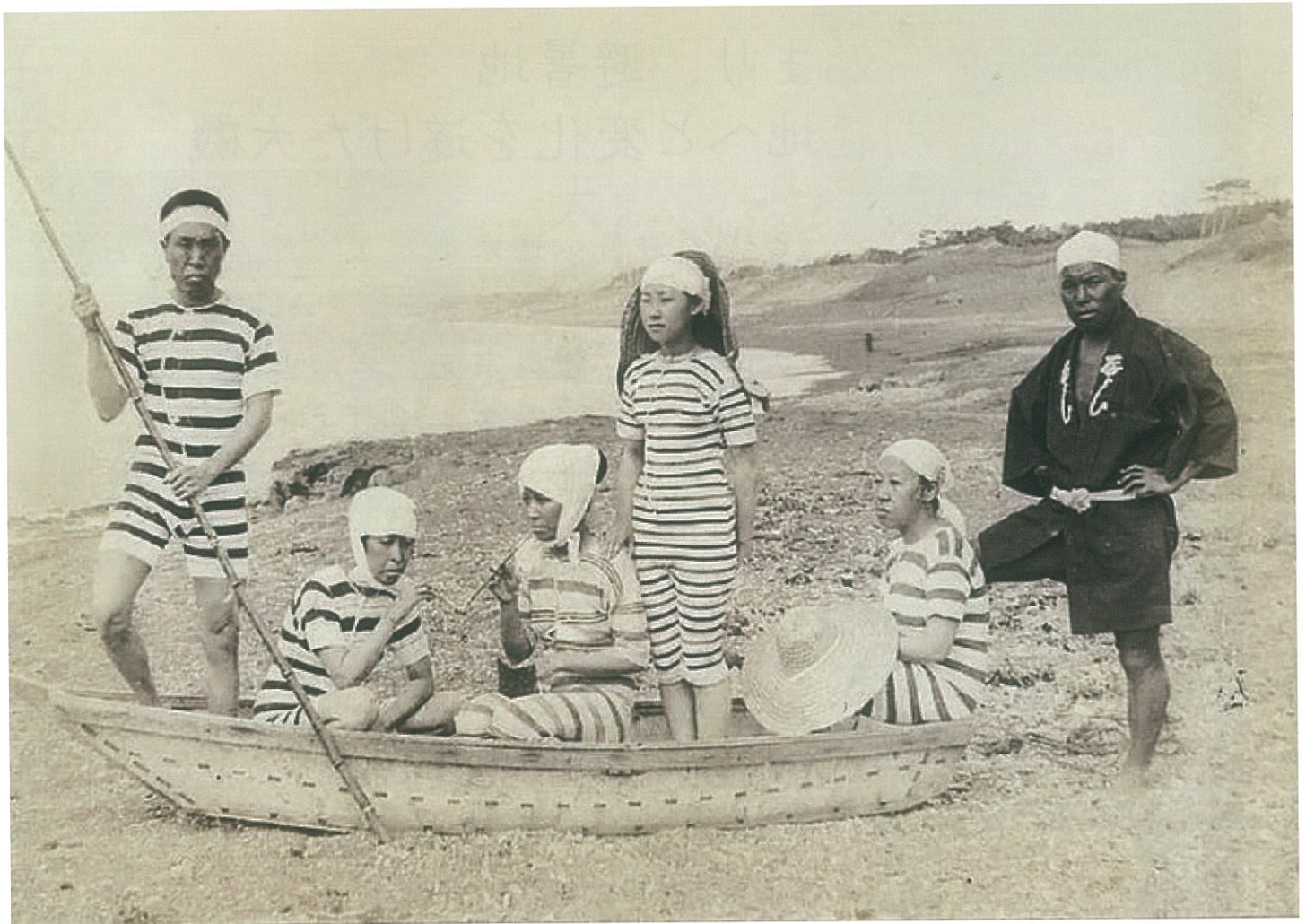
山縣有朋や西園寺公望、大隈重信、陸奥宗光、岩崎弥之助、安田善次郎といった政財界要人の別荘が多く建てられた。

1907年（明治40年）頃の大磯には150戸以上の別荘があったといわれる。

## 大磯と海水浴場の歴史年表

- |    |      |                           |
|----|------|---------------------------|
| 江戸 | 1750 | イギリスに海水浴クリニックが開設される       |
|    | 1862 | 松本潤、長崎遊学中に医療法として海水浴を知る    |
|    | 1872 | 岩倉使節団がブライトンなど海外海水浴リゾート訪れる |
|    | 1885 | 松本順により大磯の海水浴場が開設される       |
|    | 1886 | 松本順、海水浴啓蒙書「海水浴方概説」を刊行     |
|    | 1887 | 旅館・診療所「禱龍館」開業する           |
| 明治 | 1887 | 大磯停車場開業（現大磯駅）             |
|    | 1890 | 大磯海水浴場が舞台の歌舞伎が新富座で上演される   |
|    | 1896 | 伊藤博文、別荘「滄浪閣」を建てる          |
|    | 1899 | 東海道線の避暑旅行客に鉄道往復割引切符を発売    |
|    | 1904 | 避暑旅行客向けの臨時旅客列車運転          |
|    | 1908 | 日本新聞で避暑地百選で大磯が第一位になる。     |
| 大正 | 1917 | 海水浴場開設30年記念祭 海水浴場直通道路開通   |
|    | 1934 | 海水浴場開設50周年記念 海水浴場を一般向けに改革 |
| 昭和 | 1959 | 大磯ロングビーチ開業、吉田茂元首相が祝辞      |





シマウマこそ明治の流行

## ビーチファッションにも注目ちゅうもく

当初とうしょの海水浴かいすいよくは水浴びみずあ程度ていどで服装ふくそうも西洋寝巻せいようねまきと  
呼ばれたワンピースよばのような洋装ようそうでした。

それが明治30年代後半には日本の水着めいじの元祖ねんだいこうはん  
として海うみで泳およぐことを考慮こうりょした縞模様しまもようが特徴とくちょうの  
「シマウマ水着みずぎ」が登場とうじょうしました。

当時最先端とうじさいせんたんのビーチファッションみに身つつを包み  
海水浴かいすいよくを楽しめたのは富裕層たのだけでした。  
写真右端ふゆうそうの男性しゃんみぎほじはジイヤだんせいと呼ばれた地元よの青壮年じもと  
で海水浴客せいそうねんの安全管理あんぜんかんりや遊泳指導ゆうえいしどうを行う当時の  
ライフガードおこ的存在とうじです。



海<sup>うみ</sup>では泳<sup>およ</sup>がず、  
浸<sup>つ</sup>かる事<sup>こと</sup>が目的<sup>もくてき</sup>

## しよ き かい すい よく けん こう ほう 初期の海水浴は健康法？

この絵は松本順が親交のあった歌舞伎役者を  
大磯海水浴場へ誘致した際に当時人気の浮世絵師  
三代目歌川国貞に書かせたものです。

書かれているのは海水浴場の筆頭であった禱龍館。  
松本順の発案で開業した大型のこの旅館の特徴は、  
松本順の指導の下、医療行為がおこなわれていた  
処であり、さらには安価で日本料理や西洋料理が  
楽しめる保養リゾートでした。

海では杭につかまりながら海水に浸かる医療法  
をおこなう歌舞伎役者たちが描かれています。



大磯の自然と歴史の魅力

大磯は天賦の海水浴場

松本順は西北に山、東南に面した地で、干潮と満潮の差が大きく、海水は河川の水があまり混ざっておらず、波が強く、塩分を多く含み、海水温が日によってあまり変わらないなどの条件から大磯が海水浴の天賦の資質があると考えた。

さらに大磯は富士山や三浦半島などが一望でき温暖な気候であるという点や宿場として培った歴史文化の懐の深さもあり明治以降リゾート地として歩むことになります。





当時の大スターも大磯にぞっこん  
とうじ だい おおいそ

## セレブもこぞってやってきた！

かいすい よくじょう かいせつ まつもと じゆん おおいそ かぶき やくしゃ  
 海水浴場を開設した松本順は、大磯に歌舞伎役者  
しょうたい おおいそ とうじょう かぶき だいほん  
 を招待したり、大磯が登場する歌舞伎の台本を  
か とうじ  
 書かせたりするなど、当時のアイドルやスターを  
きよう おおいそ つと  
 起用した大磯の PR に努めました。

けっか おおいそ めいじ ねんだい いたうひろふみ  
 その結果、大磯に明治 30 年代には伊藤博文、  
むつ むねみつ おおもの せいじか みついで みつびし  
 陸奥宗光などの大物政治家や三井・三菱といった  
ざいばつ かんけいしゃ おのえ きくごろう なかわら きちえもん  
 財閥の関係者、尾上菊五郎や中村吉右衛門、  
かたおか にぎえもん ゆうめい かぶき やくしゃ いま  
 片岡仁左衛門ら有名歌舞伎役者など、今でいう  
つぎつぎ べっそう かま  
 セレブが次々と別荘を構えるようになりました。





レジャーとしての海水浴

## 次第にレジャーへと変化

初期の海水浴や海水茶屋は旅館が運営管理する  
事が多く、旅館宿泊者か別荘滞在者が利用する  
限定的なもので、日帰り客や地元民はあまり  
いませんでした。

次第に海水浴は一般的なレジャーとして楽しまれ  
るようになると日帰り客なども増え、賑わいを  
増すようになります。

また地元民のビーチファッションは赤いフンドシ  
スタイルでした。



かいすいよく  
海水浴と茶屋文化が花開く

## うみ いえ げんけい ちゃや 海の家 の 原型 「茶屋」とは？

しゃしん げんざい うみ いえ かいすい じゃや  
写真は現在の「海の家」のルーツである海水茶屋。  
めいじ たいしょう おおいそ  
明治から大正にかけて大磯には伊豆竹、黒長、  
真間、長小島、平野、坂本、竹永、白長、飯春  
など10件程の茶屋があり写真は海水茶屋「坂本」。  
きゆうけい きがえ しょみん しきい たかい りよかん  
休憩や着替えのほか、庶民には敷居の高い旅館  
や別荘滞在者の社交場でもありました。  
まるた ほしら はり は かんそ つく  
丸太の柱と梁にヨシズが張られた簡素な作りで  
そこに客から送られた暖簾がかかっています。  
サービスも簡素で、真水の入った樽がおかれ、  
だ 出されるものは麦茶だけでした。



女性も男性も板子で遊ぶ風景

## 日本発の波乗り文化

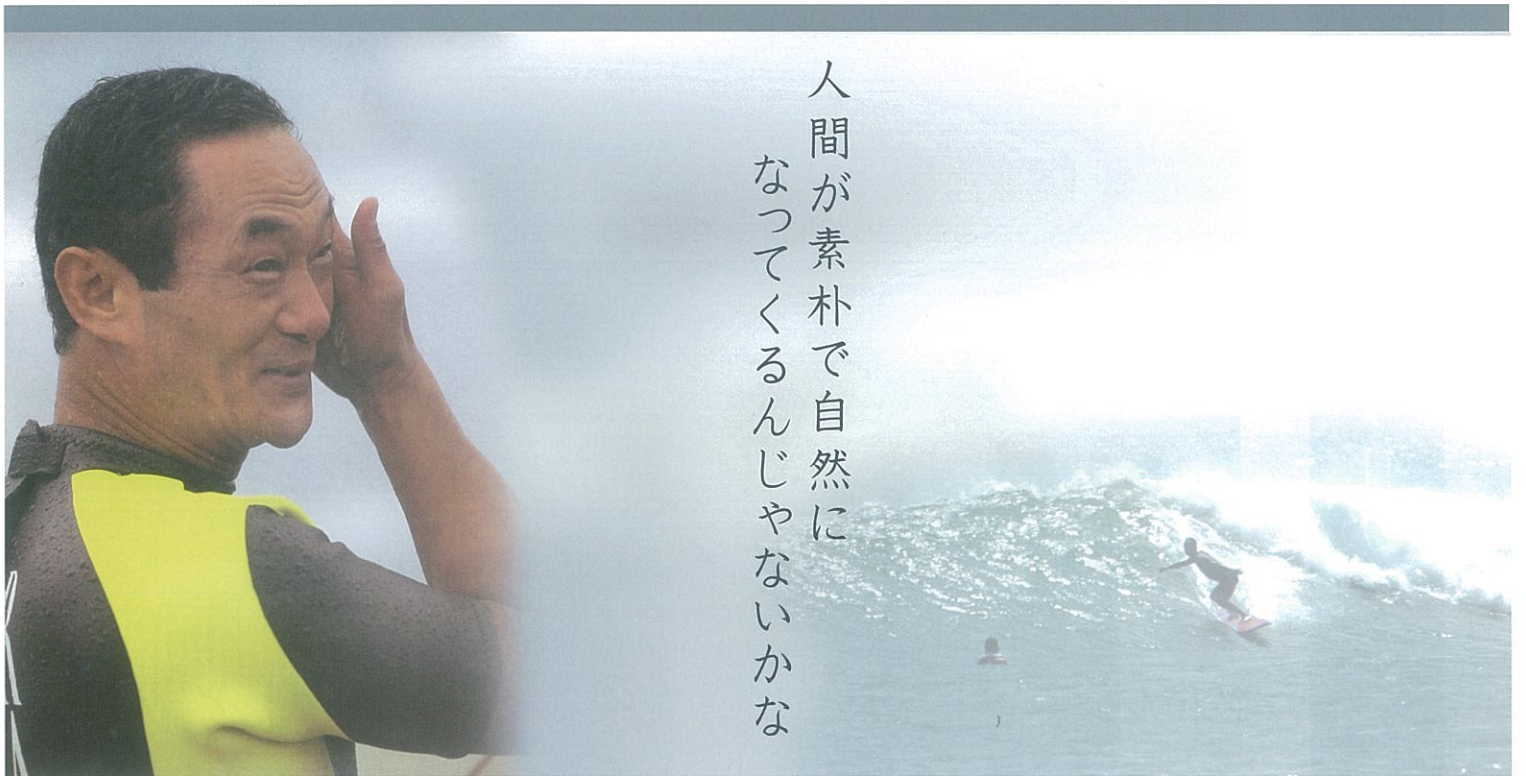
日本は古くから波乗りをしていました。

現在のボディボードに似ており、板子（イタゴ）と呼ばれる板に腹ばいに乗る簡単なものでしたが、大正13年には「日本体育叢書 第十二編 水泳」に板子乗りについて詳しく記述されているように乗り方が体系化されていました。

さらに海水茶屋では板子の貸し出しなどがあり、それが一般的に普及するきっかけになりました。板子の中には、海水茶屋の馴染み客がスポンサーとして寄贈した商標入りのものもありました。

故坂田道さんを偲ぶ

# 大磯波乗り物語



人間が素朴で自然に  
なってくるんじゃないかな

息子が言ったんだ

“人間はまず、波に乗ったか  
乗ってないかで、2通りに分かれる”とね  
なるほど、と僕も思ったよ。

ボード一枚で海に出て、  
崩れ落ちる波に乗る。

それは大自然との対話であり、  
自然との一体感を得られる瞬間でもある。

だから波に乗った人間は、  
本来人間が持つている原始的な感覚を  
呼び起こされるといふか

つまり人間が素朴で、  
自然になってくるんじゃないかな

そう語ったのは日本で初めて本格的なボードを自作し、  
一昨年74歳で亡くなられるまで日本サーフィン連盟で  
理事長を15年間、相談役を17年勤めた坂田道さん。  
この大磯北浜海岸をサーフィンの拠点とし、

日本の近代サーフィンの父と呼ばれるレジェンドでした。

波乗り伝説は手作り  
で始まった



昭和20年。「この波に、立って、乗れば」と  
夢想する少年がいた。少年が、他と違ってしたのは、  
夢を夢で終わらせなかったことだった。

坂田さんが少年の頃、ボードはなく簡単な木の板で  
腹ばいに波に乗る板子乗り。そんななかで米軍基地から  
大磯へ来ていた外国人の「サーフィン」をみて衝撃を受ける。  
資料を探し図書館で「サーフボード」の構造を解説した  
和訳された本と出会うことから坂田さんは日本で初めて  
本格的なサーフボードの自作に至る。

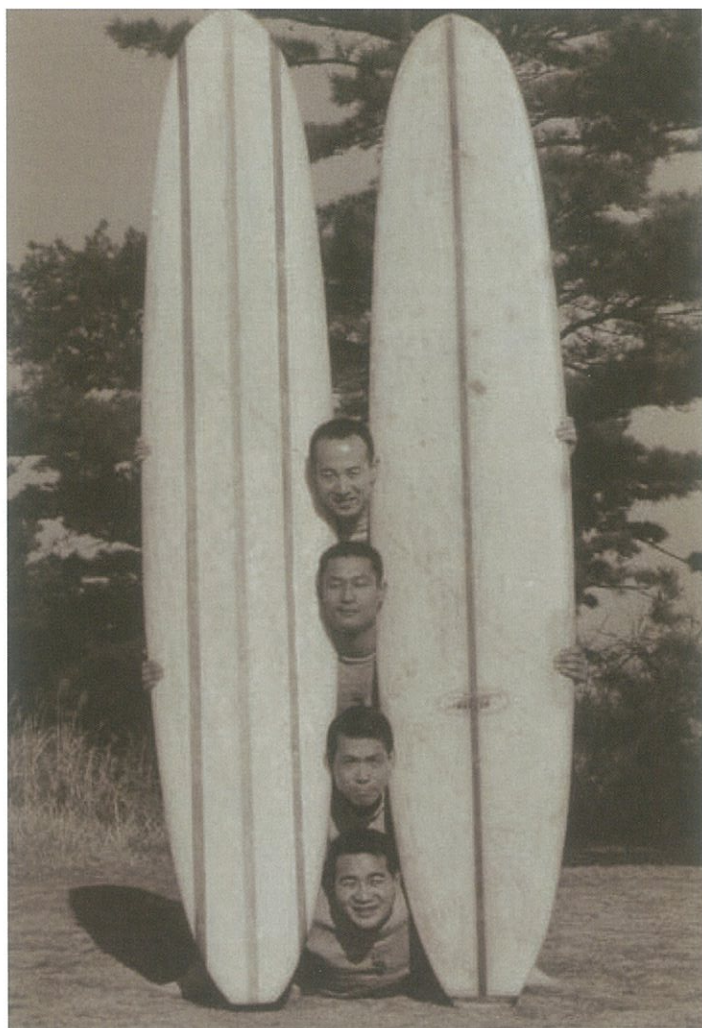
それは、ウレタンフォームをグラスファイバーで巻き、  
フィンがついた、現代のサーフボードと変わらぬものだった  
ならばと自作に挑戦するも難しい木材加工に、特殊な素材の  
ポリエステル樹脂にグラスファイバー。

ようやく完成した「一号艇」。長さ300cm、幅55cm。

いざ大磯の海岸にもちだしてみるも簡単には立てなかった。

時に坂田さん27歳。昭和38年。東京オリンピックの前年だった。





仲間達とサーフィン連盟を設立

とうしょ かいいん めい いま ぜんこく にん  
当初の会員 50 名が今や全国 10000 人

100 万を越えるといわれる日本のサーファー人口。  
坂田さんがサーフィンを始めた頃はわずか 50 人ほどだった。  
その影には会社勤めの傍らサーフィン連盟の運営に奔走し  
サーフィンに情熱を傾けた坂田さんの大きな努力があった。  
この大磯をサーフィンの拠点とし、仲間達と  
「大磯 BIG WEBERS」を結成し、昭和 40 年には、日本  
サーフィン連盟 (NSA) の立ち上げに尽力。理事長を 15 年  
相談役を 17 年勤め、全国各地にサーフィンを広め長年に  
わたり日本のアマチュアサーフィンを支えてこられました。  
今ではあたり前のボードの電車内の持ち込みも、坂田さん  
を初めとする日本サーフィン連盟の働きです。

# 年齢なんて関係ない

年齢なりに場所を選び、波を選ぶ

筋肉は使っていれば落ちないもんだ

体力なんか、好きでやっているうちについてくる

波に乗るのは男の誇り

少しずつでも、ずっと続けるのが良い

そうやって最後の最後まで波に乗った  
坂田さんでした。

## いつまでも楽しむことが真ん中にあった

坂田さんはサーフィン以外でも、海に関わる活動に力を入れてきました。

漁業関係者やライフセーバー、ビーチクリーン、アウトリガーカヌー、サーフィンなどの団体が話し合う「大磯海の会議」を発足。

代表者として、いそっこ海の教室や自然環境の保護に力を尽くされました。

少年のころから大磯の海と向き合い楽しんできた坂田さん。

いそっこ海の教室も当初から子供達に自然と向き合い楽しむことを教えて下さいました。何歳になっても自分に限界をつくらない。

そんな格好いい背中を見せ続けてくれる坂田さん

本当に有り難うございました。



いそっこ海の教室  
での坂田さん

企画：第 10 回いそっこ海の教室 実行委委員会

制作：NPO 法人 大磯だいすき倶楽部

協賛：大和株式会社

中南信用金庫

東光院

中野 工 (第 1 回いそっこ海の教室実行委員長)

編集：東光院 古井 昇

協力：大磯町郷土資料館

坂田喜久子様